

# 弱冠38歳の党幹部 細野豪志副幹事長

# 「小沢さんは情で党を動かす」

183センチの長身に甘いマスク。38歳にして党幹部。政策に通じ、民主党に大逆風が吹いた郵政選挙も含めて4戦全勝という選挙の強さも。そして「新キングメーカー」小沢一郎幹事長の愛弟子でもある。今や「次世代の首相候補」の呼び声高い民主党の細野豪志副幹事長に、自民党の凋落ぶり、鳩山政権の不調、そして小沢氏の実像などについて聞いた。

細野氏は衆院・静岡5区で当選4回。圧勝した10月25日の参院静岡補選では選対本部長を務めた。今回の補選では、自民党とは何だつたのかと感じました。建設業界も医師会も農協も動かず、公明党もつかなかつた。すると、集会でも動員がかららない。昔の自民党は、個々の議員が強い後援会を持つ大衆政党だったはずなのに、いつの間にか限られた人たちの集団になっていたのでないか。与党の権力で集団をつなぎとめていたが、権力を失い、候補者本人が素手で勝負した時に著しく弱い存在になってしまった。

今後自民党は、個々の議員が自分の後援会をつくり直して大衆政党に戻るしかない。私は必ずそうして盛り返して行くと思います。小沢幹事長も自民党を侮っていません。自民党との決着は来年の参院選と考え、むしろ厳しい戦いになるという認識を持っています。京都府生まれの滋賀県育ち。当選1回のころから内閣委員会などで活躍し、マスコミ規制を含む個人情報保護法案を廃案に追い込む中心になるなど、党内で若手の論客として注目された。鳩山内閣発足時には副大臣就任要請が殺到したが、



閣内より党務を選び、わずか38歳で10人しかいない党役員会メンバーの副幹事長兼組織・企業団体委員長に就任した。選挙対策の実務を担う役職だ。小沢幹事長による抜擢と見られ、今や小沢氏に最も近い議員の一人とされる。一方で同氏と距離を置く前原グループに属しており、前原誠司氏との関係は微妙との声もある。副大臣要請については、もう過去のことなので……。ただ、選挙の実務でいろんな団体に対応して動かしにくいことは、若手ができる機会がなかった仕事。そこで自分の力を発揮してみたかと思っていました。小沢さんというあれだけの経験があり、実際、結果も出している人の下で勉強したいという思いもありました。

## 民主党次世代の首相候補



が幹事長の持論で、政策実現に影響を及ぼすことを意識的に避けています。私が幹事長と近い関係になったのは、前原さんが代表を辞任した後、小沢代表になっても半年間、役員室長を務めたことがきっかけです。民主党が地に落ちたところからスタートし、衆院千葉7区補選で勝ち、参院選でも勝った。その手腕にはかなわないと思いました。

## 国会デビュー 鳩山政権

際やってみると、多少考えが違った部分と違って調整が必要になるところがあるが、それも乗り越えようと努力している。いま与党の側で政府の方向を変えようとするべきではありません。しかし、政府に入ると、我々が考えている以上に忙しい。霞が関の中に入ると時間が長くなる。耳に入るのも官僚の声のほうが多くなる。そこを補い、国民の声を聞く耳に我々がなれば良いと思います。与党議員が政府の中で事業仕分けをするのもいいチャンスです。政府・与党の一体感が高まります。それに、次のマニフェストは党が作りますが、当然、議員には政策立案の機会があります。

これまで大臣や副大臣は官僚機構の上に乗っていただけで政策は関与しなかつた。だから、与党が官僚に圧力をかけて政策を微修正しないと、この国は動かなくなつた。いまは政務三役が省庁を掌握してしまから、それでも党の要望

## 落ち込んだ時に電話くれ激励も

役員室長は代表にひついて歩き、酒席に同席することもある。そこで人間性を垣間見ることもありですが、非常にシャイな人です。でも相手の考えや気持ちに対する洞察力は鋭い。幹事長が自らに近しい人だ

落ちはもうそういう段階を越えています。内閣の布陣を見ても、小沢さんと距離がある人も入り、国会人事でもできうる限り、全員にチャンスを与えようとしている。キャリアに応じた配慮もしている。党運営を会社経営に例えれば、日本企業が失った終身雇用や年功序列を守り、社員も大事にする経営者ですよ。情に言えば、私が女性問題で失敗し、党の役員もすべて辞任して落ち込んでいた時に、電話をしてきてくれたのが小沢さんでした。ふだんはなかなか自分から電話してくることは少ない人ですが、「お前もちょっと仕事をしなさいよ。参院選の準備を手伝ってくれ」と。それで私も、「もうひとがんばりしないといけないな」と思われしました。選挙では非情ですが、党運営では情の人。その情が、私も党も動かしていると言っている。

しかし、「この国を動かしているのは鳩山首相である」

安全保障、エネルギー問題など、私なりにやりたい政策があります。実現するためには権力をとらなければならない。首相しかできないこともある。そんな思いはあります。ただ、昔さんや岡田さんとはキャリアがまったく違います。私と並べるのはお二人に失礼です。聞き手 本誌・森川愛彦

小沢氏(写真左)を師と仰ぐ一方で、「自分が側近だとは思っていない」と語る細野氏

週刊朝日MOOK

筑紫哲也

永遠の好奇心

好評発売中!

定価980円(税込)

朝日新聞出版